

本州におけるクマタカ営巣木・営巣環境のバリエーション

長野 紀章・紀國 聡((株)建設技術研究所)、中野 晋(環境設計(株))

■はじめに

クマタカ (*Spizaetus nipalensis*) の生息環境は一般的に山地の森林地帯を生息環境とし、営巣地はある程度急峻な谷で、急斜面に生えているアカマツ、モミ、スギおよび落葉広葉樹の大径木がほとんどとされる(環境庁、1996)。

しかし、演者らは現地調査を重ねる中で前述のような環境に適合しない事例があるなどクマタカの営巣環境には大きなバリエーションがあることが分かった。このバリエーションについて地域的な特徴を把握することが本研究の目的である。

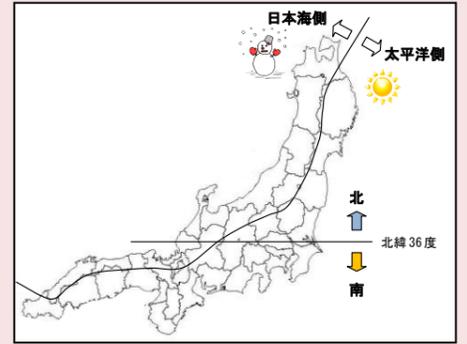
■データの属性

- ・つがい数：140
- ・営巣地の数：180 箇所
- ・営巣地の標高帯：85m~1450m
- ・営巣地分布地域

東北	関東	中部	近畿	中国	合計
35	10	96	28	11	180

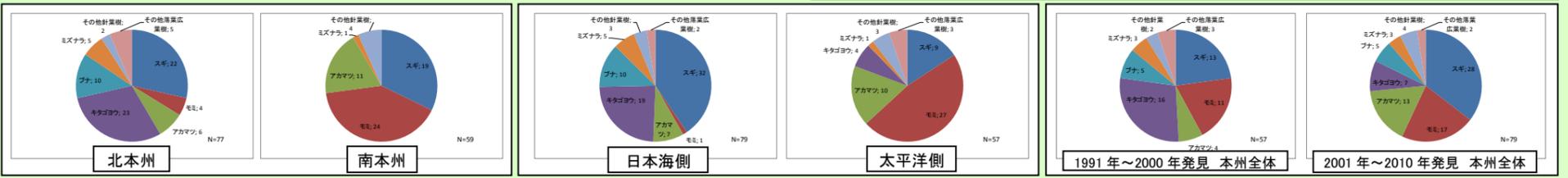
■地域区分

- ・北緯 36 度以北を「北本州」、以南を「南本州」
- ・植物区系を参照して「日本海側」と「太平洋側」に区分



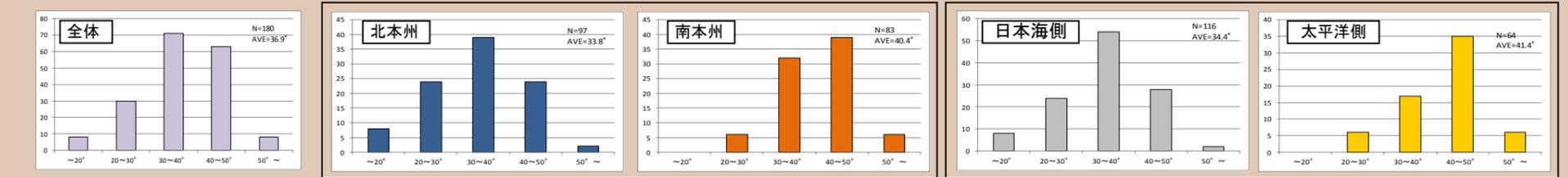
【営巣木樹種】

- ・北本州ではキタゴヨウやブナの割合が高く、南本州ではモミが多い。
- ・日本海側ではスギとキタゴヨウ、ブナが多く、太平洋側ではモミが多い。
- ・本州の南北や気候区分により営巣樹種が大きく異なる。
- ・いずれの区分でもスギの割合が比較的高いが、近年さらに増加している。



【斜面傾斜】

- ・意外と？ 緩い斜面でも営巣する。
- ・北本州では南本州よりも、日本海側では太平洋側よりも緩い斜面で営巣する傾向がある。



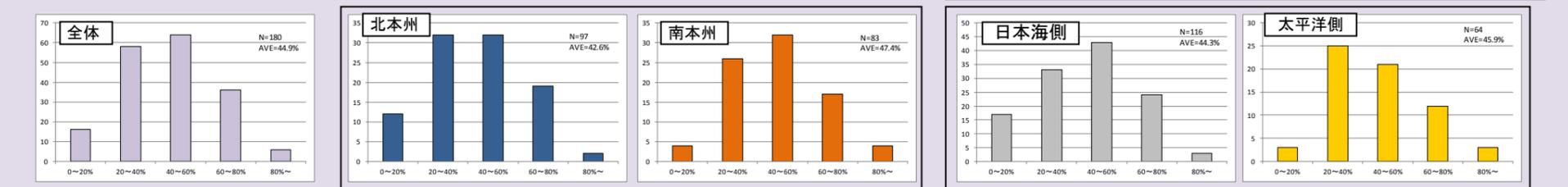
【斜面方位】

- ・北本州では東向き、南本州では西向きがやや多くなっている。日本海側では北から北東がやや少ないが太平洋側では北東向きが多い。
- ・顕著な差は見られず傾向は不明確。



【谷比高】

- ・北本州では南本州よりもやや斜面下部での営巣が多い。
- ・太平洋側ではやや日本海側よりも斜面下部での営巣が多い。



■おわりに

クマタカの生態については地域ごとの研究はあるものの、地域的な差異についてはこれまで必ずしも明らかにされてこなかった。本研究により、営巣環境については地域による違いが大きいことが明らかとなった。クマタカは地域ごとの多様な環境に適応し、様々な営巣形態を持っていると考えられる。

一方で、クマタカは環境省レッドリストにより絶滅危惧 I B 類に位置づけられる希少な種とされる。このため、アセスメントでは営巣地などの保全策が講じられるが、地域的なバリエーションは十分に考慮されていないことが多い。営巣地の保全対象環境の抽出として行われる営巣適地解析などでも全国一律モデルが使用されている事例が散見される。

今後は、地域ごとの営巣地データを収集するなどして地域的な差異を考慮するとともに個体ごとのバリエーションにも配慮した慎重な保全策を行っていくことが望ましい。



■特殊事例

今回収集したデータの中にはこんな事例が！

- ・クマタカが地上に営巣
- ・北陸地方の多雪地帯
- ・急傾斜尾根上のキタゴヨウとブナ等の落葉広葉樹の混交林
- ・林内の岩の上に巣材が積まれていた。
- ・直上にはキタゴヨウがあるがかなり細い。
- ・6月中旬に巣には5日齢程度の雛、親鳥も育雛
- ・7月下旬に再確認した際には営巣放棄されていた。

